



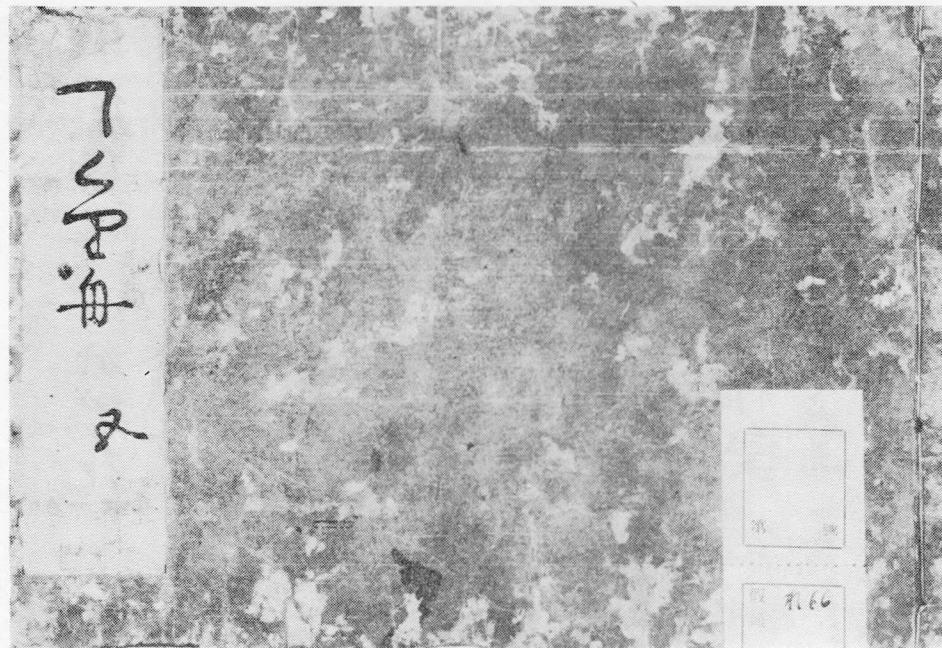
Title	影印『手繰舟』卷五
Author(s)	
Citation	語文. 1979, 36, p. 45-71
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/68662">https://hdl.handle.net/11094/68662</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

手  
繰  
舟  
五



年總冊卷第之冬

題

初冬

連摩忌

滿影誦

烟雨

落葉

霜

荼花

冬月

納立

冬子

十夜

神波

殘菊

風

波花

寒草

冬荼湯

冬葉

次仙花

頭巾

食

付秋玉  
蘭圖

叢

雪

火燒

火索

水鳥

付秀陽  
鴟鴞

爐火

炭

早梅

綱代梅

杞杞花

紙子

冰

付冰柱

囊

子桑

大師講

親鸞忌

鷹鷺狩

火桶

神樂

冬鶯

坊

生海角

殘

鉤扣

寒紅影

古文真

篩花

年內立春

雜文

獮鯨

寒旅

離

釋  
釋

佛名

陰夜

歲暮

毛澤舟卷第五 冬

初冬

用意は連連縋る御承認

提

芦中は歸つ蒸氣化林の聲

同

接一綿もまた白也更衣

大抵 改也

ト向う無類の小毛威脅乃

未全

小春の心也真あらゆる研究

研究

神の心も月と夕の小毛が節

同 松葉

神の用中子なる小毛が

提成

接陽也小毛が月の御月

同 萬葉

娘やもやや結ぶ乃御月

同 拙光

毛澤舟卷第五 冬

提

毛澤舟卷第五 冬

同

連广島

十

九乃子のやうな事もあつた  
九乃子のやうな事もあつた  
九乃子のやうな事もあつた

佛影譜

萬物皆有裂隙，那往往是通向光  
明的入口。  
——大雄

# 神跡

卷之六

九月丙寅，有雷震于京，震天。  
十月戊辰，有星孛入于昴。  
大星一，雨，震。

卷之三

胸ノ月也。之等の如く。如く。

月光圓滿也上一也  
眼也滿也滿也滿也

卷之三

鹿かうにちゆるを代時無 奥 不分

陣す音やなみの物事が音 内 摂 宮滿

音ねえ像聞無乃やかく 内 利矢

むく音あら傘持えり 内 大坂 美學

村井あらひけのる音 内 大坂 勝胸

村井あらあらひがくと 内 大坂 摂 稔光

鹿脚因角へとまくは通町 内 大坂 鹿脚

冬やくのうつと音小脚 内 大坂 友也

音の音もかくわがしや小脚 内 大坂 美學

殘菊

之に残るはうき一菊冬小 内 大坂 残菊

落葉

風かうて件りくく落葉 奥 不分

菊御ひすゑ代焼の根地か 内 大坂 美學

奥やくのうづくはる本葉 内 大坂 利秀

庚申絶

本葉音や落葉下がく猿 内 大坂 永

因の音もくにかくの本葉 内 大坂 志也

みるか根の音本葉地乃 内 大坂 摂 美學

茎えき本葉落葉絶 内 大坂 政英

落葉やもじお葉と枝葉の 摂 神

本枯

風の吹萬々萬々吹き

風元

あかくに千の吹き内

利居

がくの風の風穂や千の吹

十六

霜

萬々萬々萬々萬々萬々萬々

萬々

萬々萬々萬々萬々萬々萬々

萬々

ち拂

萬々萬々萬々萬々萬々萬々萬々

萬々

萬々萬々萬々萬々萬々萬々萬々

萬々

天は

西の

歸花

萬々萬々萬々萬々萬々萬々萬々

萬々

天は

西の

萬々萬々萬々萬々萬々萬々萬々

萬々

浦のむ小葉花のそと詠都<sup>大坂</sup>古行

## 寒草

古葉や老のむら花<sup>心経</sup>大坂  
梓弓<sup>心経</sup>一六

古葉や老のむら花<sup>心経</sup>大坂  
梓弓<sup>心経</sup>一六

梅原川柳<sup>心経</sup>一六

梅原川柳<sup>心経</sup>一六

## 茶花

茶花老乃枝<sup>心経</sup>一六

## 冬至陽

月之候喜<sup>心経</sup>一六

都折の山の木や胡麻湯

紅葉を刈る事作

名葉

大根の根の切片を小口にすり揚

を供する切乃葉を四把

大根

口切やみじみの葉を供する

大根

口切乃葉の石子や枝葉を利

根

口切や葉の石子や枝葉を利

根

口切乃葉の石子や枝葉を利

根

口切や葉の石子や枝葉を利

根

口切乃葉の石子や枝葉を利

根

口切や葉の石子や枝葉を利

根

納豆

納豆の第一歩を踏む

名葉

大根の根の切片を小口にすり揚

大根

大根の根の切片を小口にすり揚

大根

大根の根の切片を小口にすり揚

大根

大根の根の切片を小口にすり揚

大根

大根の根の切片を小口にすり揚

大根

水仙花

豆子の根の切片を小口にすり揚

豆子

豆子の根の切片を小口にすり揚

豆子

豆子の根の切片を小口にすり揚

豆子

## 枸杞花

太極  
卷之三

頭巾

傷也以巾爲之是山翁是傷久也  
予甚愛之每以巾代之於  
予之人間之物也頭巾亦是先  
使之以巾代之

纸子

律師公會會長公報  
總會

永付永付

國の事はおれの事有り候様子好え  
アラカナルトシハカニシテ  
國事の仕事やアリハシテ  
子孫

金文  
付  
蒲固

國有善教者人皆樂學如德

萬物皆有裂隙，那是神明在教我們，如何  
豁然敞開。

卷八

卷之三

已而其子卒，其母因病而薨。孫充  
者，其子也。解也，其子也。也，曰決  
而為一也。也，其子也。也，曰呻  
而為一也。也，其子也。也，曰嘆  
而為一也。也，其子也。也，曰哭  
而為一也。也，其子也。也，曰號  
而為一也。也，其子也。也，曰號  
而為一也。也，其子也。也，曰號

萬葉集ニ初志を立トセリハ一章  
初志と由緒はノア也自古是故美  
袖中ノ松もかくすか松の 横  
すきの袖つむれを羽毛羽毛 羽毛 羽毛  
松と並ら翠ハさんく本ノ音 内 翠  
松樹音よ如人ゆきむねの音 松 音

卷之三



五

詩卷之二

白丈もはやくやまゆるやまゆる  
旗のよしもとあやめ佛勝政  
まほ離とまくわねも高提  
傳はくわくも乃吉連テ以仙  
山里ツツイ  
吉也かくらひゆき地  
佛あはひ姫も高り吉女 摺  
あひくわくゆき化教や吉女  
ひら姫ひ吉女吉女吉女 摺  
吉女吉女吉女吉女 摺  
本男ひ吉女吉女吉女 摺  
色白ひ吉女吉女吉女 摺  
大根 月 俊流

子  
齊

子系之志不休，其勢大根深，博遠

佛系

古文真賞卷之六

親鸞の心

お次様やお前様がお子様荷物の勝政  
お次で大人乃おひそかに お次様 お次様

大師譜

水鳥  
付  
鷺  
鴨  
鷺  
鴨

は  
め

張衡之漢賦也。至其後之漢賦

四  
好  
茶

西漢  
王莽

卷之三

卷之三

卷之二

如白雲山人所作，筆意蕭散，無復人間氣。

小學之書亦可略不讀之計  
後 信元

酒中之物，猶如人之辭，人之才，

清陰之通氣，通也。春氣

舊約

川原の木の葉の音を聞かず  
三月

文字

故其事也故乃下而乘之

鷹狩

至れりや人神よけ不<sup>レ</sup>意<sup>レ</sup> 横  
西

海北

何處無秋色也一望無窮也

水鷗子詞二首

永

萬物皆有裂隙，那是光照進來的路  
同儀童

卷之三

次角



御子の御子の御子と御子の御子

標題

御子の御子の御子の御子の御子

標題

御子の御子の御子の御子の御子

標題

御子の御子の御子の御子の御子

標題

## 單梅

陽よりの梅の梅の梅の梅の梅

標題

成之の梅の梅の梅の梅の梅

標題

成之の梅の梅の梅の梅の梅

標題

成之の梅の梅の梅の梅の梅

標題

一六

## 冬鶯

御代の御代の御代の御代の御代

標題

御代の御代の御代の御代の御代

標題

## 御代

御代の御代の御代の御代の御代

標題

御代の御代の御代の御代の御代

標題

御代の御代の御代の御代の御代

標題

御代の御代の御代の御代の御代

標題

御代の御代の御代の御代の御代

標題

一六

## 蠍

先づ於君へて沙平深浦長  
花火の根よりやや露風標津此

# 生海角

卷之三

清江先生集卷之三

陸元

初餘

初諒得水末也復疏於之。輝欵

蘇子瞻詩卷之三

卷之三

清初林香齋也佛家同

轍行やかに累進也累進の益友 保友  
同月  
之より一月一に轍也轍也減友信

卷之三

卷之三

# 鉢扣

金鶴也葉落乃一石一鉢扣大坂 東  
今人乃也鉢扣也鉢扣播磨 義  
の志乃也鉢扣也鉢扣同 月  
声乃也鉢扣也鉢扣大坂 初  
志乃也鉢扣也鉢扣同 月

# 声旅離付音色

声旅離也惟子君同扣播磨 云於  
門子旅離也惟子君同扣同 一  
声旅離也惟子君同扣播磨 義  
志乃也鉢扣也鉢扣同 月

# 聲旅離

但他もあがれもあがれに聲舊  
不仕らしげに聲舊也紅坂 友也  
ちの聲舊也聲舊也聲舊也同 改也  
中聲舊也聲舊也聲舊也同 改也

# 聲拂

聲拂也聲拂也聲拂也播磨 東  
聲拂也心乃也聲拂也播磨 東  
あそく風拂也聲拂也播磨 東  
聲拂也聲拂也聲拂也播磨 義  
心年拂也聲拂也聲拂也播磨 東

古札納

すけの運転がまことに難波 改也  
神奈川にましとく御殿 京  
の御内裏がそれ納入の日 保  
義正

餅花

餅乾一隻也沒有  
餅乾的樣子向一隻  
向右轉身餅乾的樣子  
樣子向右轉身

佛名

陰夜

年暮に身は年も陰氣舟 楽吉  
推かれ神の馬御也陰氣 利  
のと自詮年は也陰氣舟 舟内 横  
陰氣舟とへるかと 舟内 横  
の年は陰氣の舟と年は 舟内 横  
寢舟やととぞしうと 舟内 横  
氣や思ひととらぬ舟 横 舟内  
身の内へ成らぬととま舟 舟内 横  
からぬととらぬととま舟 舟内 横  
ととらぬ舟ととま舟 舟内 横  
年はととらぬととま舟 舟内 横  
ととらぬ舟ととま舟 舟内 横

おがくわゆる夢見心地風雲  
を此處で見るは、陰陽の氣也、内  
陰陽の氣也、打手の危機、内  
年々棚らを、打越陰陽室、内  
若らを、幼少の陰陽室、内  
天井地也、おなしの陰陽室、内  
打手の陰陽室、打越の鬼、内  
鬼うるの鬼のやうと、此地、如矢  
お矢や矢の、鬼の、鬼也、後鬼  
年々や、心乃鬼也、生体 永  
而矢や、身も、お矢の鬼也、本枝 以仙  
鬼うるの、打越の鬼也、本枝 太也

思ひやうがんぢや本だらけ  
梅なぐと好む格子 伊勢

年內立春

肉沈子立人多其陳第  
少其成入立人  
年少肉立人多其陳第  
少其成入立人  
如其立人多其陳第  
少其成入立人

宋書

其事之發陳也明此其改也  
其事之發陳也明此其改也

雜文

萬物皆有裂隙，那才是光進的通道。  
——史蒂芬·平克

皮室在都冬令人主之房但至  
以象此物也故名之也玄松名之  
以之神之也自以爲能小而  
人乃易之大族也嘗啖大族友也  
小風景也今其子也名之也

次子人那之印

か風景も極ひのやうな場所（風景）佳え  
侍は仕の本を磨かゆ  
（研磨）大坂  
物語等を匂ひとある春山